

守谷粘土による試作指導

鷺谷昇 根本達志 池本周 尾形尚子

1. 緒言

県内産業振興料の有効活用として守谷町に産出する粘土を使用し、親しみのある生活用品の試作指導を行った。

守谷粘土の主な特徴として、下記の3つが上げられる。

乾燥収縮率が大変大きい(12.1%)為、乾燥時の割れが生じ易い。

全体収縮率が大変大きい(18.5%)為、歪みが生じ易い。

焼結温度が低い。

これら、により、守谷粘土単体での使用は、相当の技術を要する事が分かる。また、きめが細かい土に、大変粘りが強いため、つくる研削こより、3~5割り位の他の粘土を配合すると、それぞれの土材の長所が表れ来ると共に、使い易くなる。



図1 アロマポットと花器

2. 内容

2.1 試作品

- 鉢(大・中・小)、焼き物角皿、はし置、湯呑、マグカップ、ピアカップ、浅鉢(大・中・小)、梅花手皿、アロマポット

2.2 使用粘土

- ・守谷粘土(水簸) + 大塚土
- ・守谷粘土(水簸) + 波磨土
- ・守谷粘土(水簸) + 古信樂土

2.3 成形方法

- ・ロクロ成形、石膏型起こし、タタラ成形

2.4 加飾方法

- ・黒どべ、化粧土描き落とし

2.5 焼成方法

- ・焼成窯炉: 電気炉、酸化ガス炉・灯油炉、還元
- ・焼成温度: 1250℃
- ・使用釉薬: 白マット釉、白萩、土灰釉



図2 梅花 塩皿

3. 結果

流通が発達した今、他産地の粘土を手に入れるのは容易である上に、そのままで作陶できるように調整されている。守谷粘土は、これらの安定した粘土とは異なったその土地独自の味があり、特徴ある新しい工芸陶器の展開が可能である。しかし、鉄分の多い粘土の為、釉薬への影響があるので、今後は、化粧土を使った釉薬の開発を実施する。